

角膜を削らない

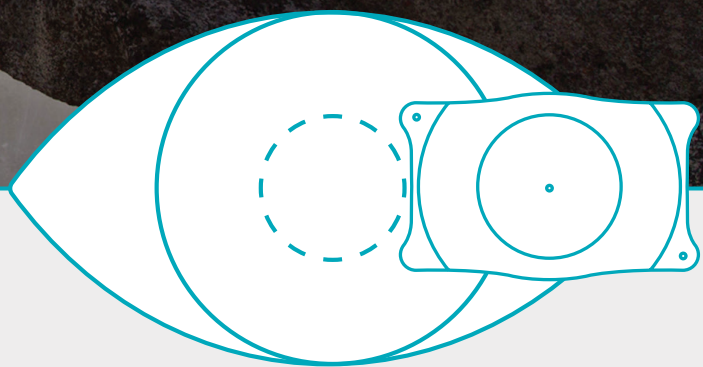
眼内コンタクトレンズ 視力矯正 のご案内



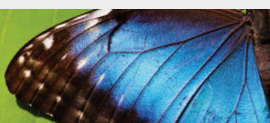
Implantable Contact Lens (ICL)
Vision Correction

角膜を削らない 眼内コンタクトレンズ[®]視力矯正

Implantable Contact Lens (ICL)
Vision Correction



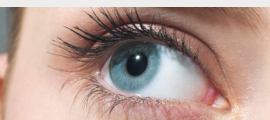
眼内コンタクトレンズ視力矯正とは 目の中にレンズを入れる視力矯正です。



シャープであざやかな見え方が期待されます



入院不要の治療で、翌日には快適な視力回復が期待されます



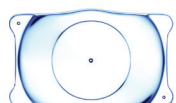
ゴロつきや異物感もなく目にやさしい



ドライアイの原因になりにくい



良好な夜間の見え方が期待されます



ずっとお手入れ不要
万一の場合でも、レンズを取り出し元の状態に戻すことができます



紫外線をカットする機能もあります

眼内コンタクトレンズ視力矯正は、角膜を削らずにレンズを目の中に入れて視力を矯正する方法です。

インプラントブルコンタクトレンズを略して「ICL」、またフェイクIOL（有水晶体眼内レンズ）と呼ばれることもあります。眼内コンタクトレンズなら、角膜を削らないので角膜の形がほとんど変化しません。また光学部が大きく確保できるため、夜間に問題となるハロー・グレアの抑制が期待されます。

目のしくみと屈折矯正

目の中で、光は角膜と水晶体の2つのレンズで屈折され焦点を調節して網膜に像を結びます。

角膜

約40D(ディオプター)の屈折力を持ち目全体の2/3の屈折力を担います。

水晶体

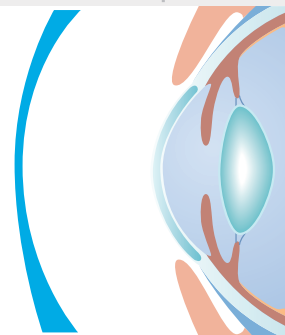
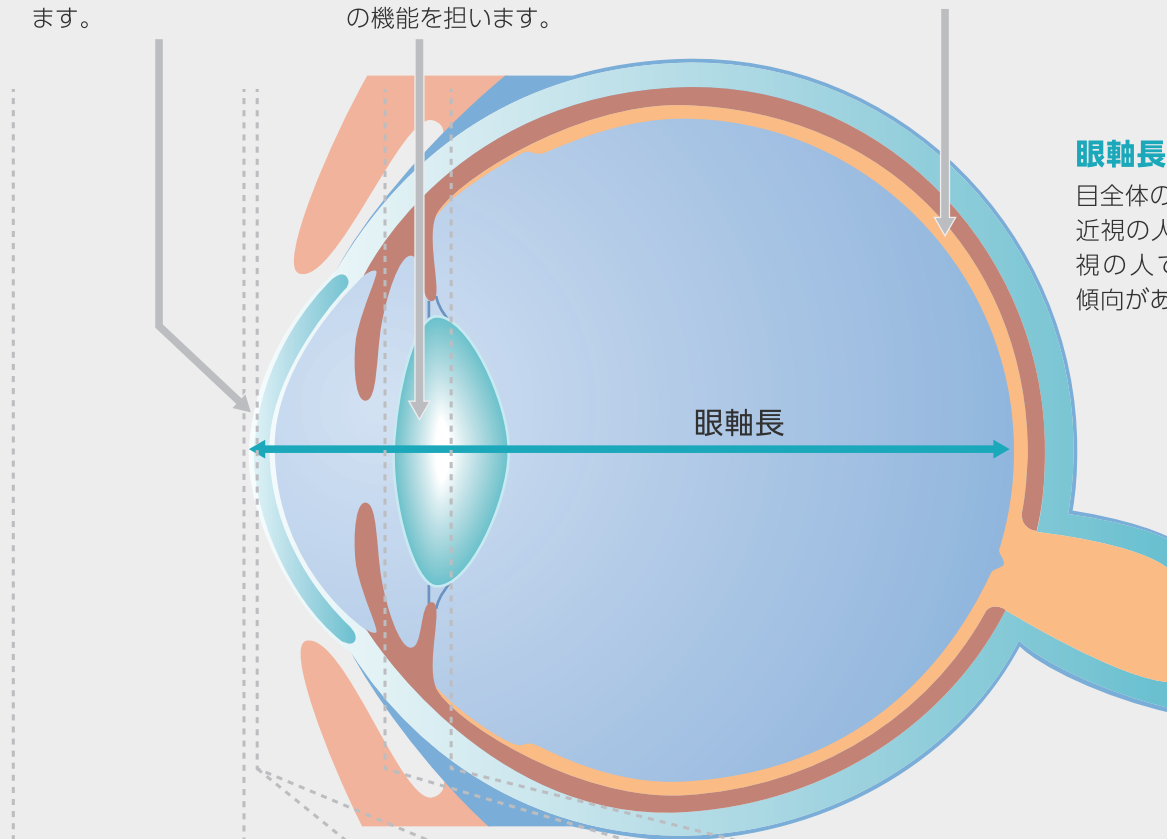
目全体の約1/3の屈折力約20D(ディオプター)を持ち、屈折力を変化させピント調節の機能を担います。

網膜

カメラのセンサーに相当。映像を神経信号として脳に送ります。

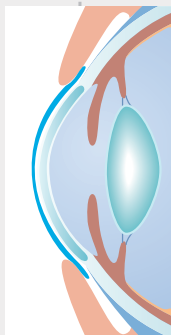
眼軸長

目全体の奥行き長さ。近視の人では長く、遠視の人では短くなる傾向があります。



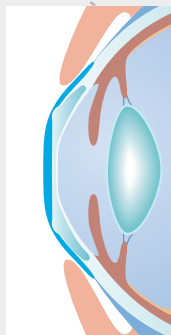
メガネ

角膜の手前1cmくらいのところで屈折を矯正します。手軽ですが、近視を矯正する場合、物が小さく見え、周辺部がやや歪むためレンズの外側で見え方に不連続な部分が生じます。



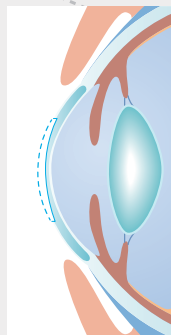
コンタクトレンズ

角膜上にレンズを装着し屈折を矯正します。角膜に直接触れるため衛生管理が大切です。



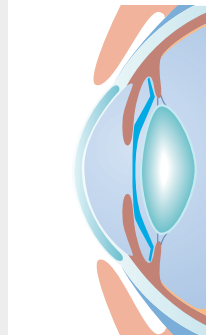
オルソケラトロジー

特殊な形状のコンタクトレンズを毎夜装着することで角膜を変形させ日中の視力を矯正します。装用を中止すると元に戻せません。強い近視には向きません。



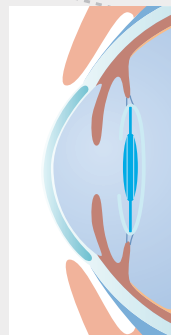
LASIK、PRK等角膜屈折矯正手術

角膜を削って角膜の屈折力を調整して屈折を矯正します。角膜の厚さによって矯正範囲が限定されます。



眼内コンタクトレンズ視力矯正

虹彩と水晶体の間にレンズを入れて屈折を調整します。強度の矯正も可能で、またレンズ取り外し元に戻すことも可能です。



眼内レンズ(IOL)

白内障により白く濁った水晶体を取り除き眼内レンズ(IOL)を入れて屈折を調整します。水晶体の持つピント調節機能が失われますが、近視や遠視の矯正も同時に矯正可能です。



詳細検査

視力検査

裸眼での視力と矯正視力を測ります。老眼の確認のため近方視力を測定することもあります。

屈折検査

近視や遠視、乱視の強さを測ります。調節を麻痺させる目薬を使う場合もあります。

眼圧検査

目の硬さを調べ緑内障の可能性がないか診察します。

角膜内皮細胞数

角膜内皮細胞数や形状を調べ角膜の健康状態をチェックします。

角膜厚検査

角膜の厚みを測定します。

角膜径検査

レンズサイズの計算のため角膜の直径を測定します。

前房深度検査

手術が安全に行なえるスペースがあるか、角膜と水晶体の間の空間の距離を測定します。

瞳孔検査

目薬で瞳孔を拡大させた時の瞳孔径や、明所・暗所での瞳孔径を測定します。開いた瞳孔が元に戻るまでしばらくかかります。

角膜形状解析

角膜の形状を詳細に解析し不正乱視や円錐角膜の診断をします。

必要に応じてその他の検査を行います。

手術決定までの主な流れ

適応検査・カウンセリング

手術の前に、レンズの適応基準を満たしているかを確認するため、視力や屈折など目の状態の術前検査を行い、総合的に適応についてカウンセリングを行います。

適応の場合は、今後の検査や手術日などのスケジュールリングを行います。

詳細検査

詳細に検査を行うことにより、手術に使用するレンズの度数やサイズを決定します。

コンタクトレンズを装用している場合は、角膜の形状変化を取り除き正確な度数を測定するため、一定期間装用の中止が必要です。

コンタクトレンズ装用中止日

年 月 日より

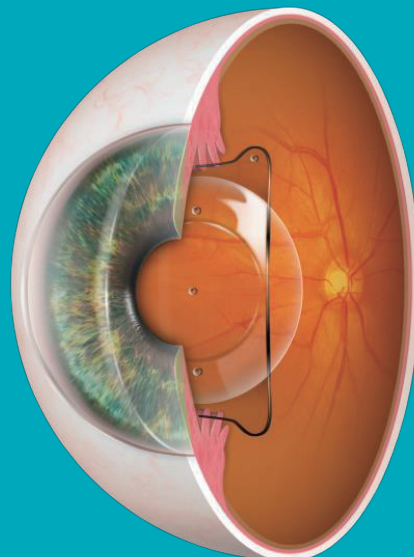
詳細検査日

年 月 日 曜日 時

年 月 日 曜日 時

MEMO

手術当日の主な流れ



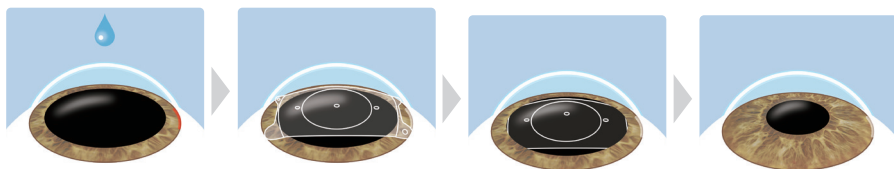
手術の主な流れ

手術日

年 月 日 曜日 時

来院受付後、スタッフの指示に従い、手術準備のための点眼などの準備を行います。健康状態確認のため血圧、心拍数等のバイタルチェックも行います。

手術の概要



目薬で瞳孔を拡大させ、点眼麻酔をして、角膜の縁を約3ミリ切開します。

切開した部分からレンズを眼の中に入れます。

レンズを虹彩と水晶体の間に固定します。

瞳孔を収縮させ手術は終了です。

手術終了後

院内でしばらくお休み頂いた後、目の状態を検査し、問題がなければお帰り頂きます。

術後の点眼や服薬等については医師の指示に従って下さい。

MEMO



注意事項

- リラックスできる服装でご来院下さい。
- お化粧品はお控え下さい。
- 公共交通機関やタクシーでご来院下さい。手術後は許可があるまで車の運転はできません。



傷口が小さいので回復が早いので、入院不要で日帰りの手術が可能です。



医師の指示に従ってお薬（点眼薬・内服薬）を使用し、定期検査を受けて下さい。



術後しばらく見え方が変動し、光に過敏になることがあります。



完全に回復するまでは、目を直接触らないように注意しましょう。また制限事項を守るようにして下さい。

重要!!

治療後は医師の指導に従いお薬の使用や定期検査を受けることが大切です。気になること、不安なことがあったらお気軽にお問い合わせ下さい。

手術後の生活

見え方について

視力の変動・・・術後1週間ほどは、炎症などで視力が変動することがありますが、回復とともに改善します。

ハロー・グレア・・・夜間や暗い中で光を見た時に、光の輪 眩しさを感じる場合があります。通常は徐々に気にならなくなりますがこの症状が残る場合はご相談下さい。

一般的な症状(帰宅～翌日)

異物感、充血・・・傷口が治癒し、炎症が治まることで、かすみ 時間とともに自然に改善します。

手術終了後の注意事項

手術後一定の期間、日常生活の以下のような項目について制限があります。

詳しくは、医師の指示に従って下さい。

- 洗髪・洗顔
- シャワー・入浴
- 化粧・アイメイク
- 飲酒・たばこ
- 運転
- 運動
- プール

まれにおこる合併症

レンズの位置・・・術後検査でレンズの固定位置がずれていたりレンズの大きさが適切でない場合はレンズの再固定や入替えを行うことがあります。

度数ずれ・・・術前に予想した屈折度数とずれが大きい場合はレンズの入替え等を検討することがあります。

白内障・・・レンズに起因する水晶体の白濁が観察された場合はレンズを取り出し白内障手術を行い視力を改善させます。

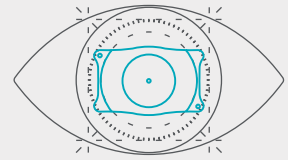
緑内障・・・レンズに起因する眼圧上昇が見られた場合は薬や追加処置を行います。

眼内炎・・・極めてまれですが細菌が目の中に入ることにより眼内に炎症が生じることがあります。抗生剤や消炎剤で対応しますが、程度によってはレンズを取り出すことがあります。

Q&A

Q. 手術を受ける制限はありますか

- A. 目の形や病気、全身疾患などによって対象とならない場合があります。事前に詳しい検査を行い、目の形、状態、生活習慣などを総合的に検討して適応かどうかを専門の医師が診断を致します。また正確な検査のためにコンタクトレンズ(特にハードレンズ)は一定の期間、装用を中止して頂く必要があります。妊娠中・授乳中は、視力が不安定になることがあり手術はできません。



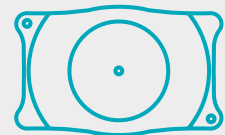
レンズは黒目(虹彩)の後ろ側と水晶体の前面の間に固定しますので外から見てわかりません。

Q. 手術は痛いですか?

- A. 目薬タイプの点眼麻酔をしますので痛みはほとんどありません。

Q. レンズを入れていることは他人に気が付かれますか?

- A. 虹彩の後ろに挿入するので、外からは見えません。



レンズは、ソフトコンタクトレンズのような柔らかい無色透明で目にやさしい素材です。

紫外線をカットする機能もあり、半永久的に使用可能です。

Q. 「ハロー」・「グレア」とはなんですか?

- A. 暗いところで明るいライトなどを見た時に光の周りににじんだ輪が見える現象をハロー(光輪症)といい、ギラギラと光ってとても眩しい症状をグレアといいます。症状の度合いや期間には個人差がありますが、治療後数ヶ月で自然と気にならなくなることが一般的です。

Q. 費用は公的医療保険の対象ですか?

- A. 公的医療保険の対象ではありません。

Q. 老眼も治りますか?

- A. 40歳頃から加齢に伴う調節力の衰えにより「手元が見にくい」と言った老眼の症状が出始めます。老眼は遠近のピントを合わせる能力が衰える症状です。眼内コンタクトレンズ視力矯正では近視や乱視など屈折の矯正を行いますが、老眼の治療ではありません。老眼により手元が見にくい場合は近用眼鏡(老眼鏡)等を適宜使用して下さい。



眼内コンタクトレンズ視力矯正なら、角膜を削らないので角膜の形がほとんど変化しません。

